

平成19年度卒業論文（駒沢女子大学）

## 車内化粧～現代女性の美的価値観とその社会背景

～

人間関係学科 足岡 由梨

指導教員：石田かおり先生

### 《概要》

現代社会にすでに腰を落ち着けてしまったように感じる車内化粧。それは車内化粧というものがそれほど強く支持されているからなのか、それとも現代社会がそれをあっさり容認してしまう形が整っていたからなのか、いずれにしても車内化粧は今の日本で大きな問題となっている。なぜ女性は車内で化粧をするのだろうか。なぜ公の場で“顔を造る”工程を見せるのだろうか。現代女性が持つ美的価値観と、社会問題となりながらも車内化粧を受け入れてしまっている状態にある現代社会の現状について研究、考察を行った。

車内化粧を見かけるという人は多い。社会に蔓延してしまっているのだから当然と言えば当然のことかもしれない。しかしその実態を知る人はあまりいない。いつ、どこで、どのような化粧を、どれくらいの時間かけて行うのか。その実態調査を行った。その結果、1分～3分程度の時間で終わらせる部分化粧を行う人と、15分～25分の時間をかけてフルメイクを行う人、大きく分けて2つに分かれた。また現代女性は目元に化粧の重点を置いているようで、マスカラやアイラインを使用している人が多いという結果が見えてきた。車内化粧が行われる時間は、会社帰りや学校帰りよりも、朝の通勤、通学の際に行う人の方が多いことも分かった。

若い女性は車内化粧をどのように見ており、またどのように考えているのだろうか。駒沢女子大生を対象に車内化粧に関する意識調査を行った。その結果分かったことは、車内化粧を日常的に行っている人はごくわずか、一部の人でしかなかった。大半の女性は車内化粧をよいことであるとは考えていない。また車内化粧をしている人は、人の目を気にすることなく堂々としているのかと思っていたのだが、実際には人の目は常に気になっているという予想外な結果も得られた。

ではなぜ、ごく一部の人が車内化粧をしていないにも関わらず、車内化粧は一般化してしまったのだろうか。意識調査から見てきたことは、止めさせなければならないと思うが黙認してしまうという人が多いということだった。それは結果的には何もしないということの意味する。どんなに止めさせなければならないと思っけていても、何もしなければ見て見ぬ振りをしているのと同じ。止めさせるということを行動に移さなければ社会は何も変わらない。それは誰もが分かっていることだ。しかし分かっけていても何もしない。だから社会は車内化粧を容認する形になってしまい、車内化粧はなくならないのである。

社会問題となり、迷惑がられているにも関わらず、それでも女性が車内化粧を止めない理由。それは他人とのズレを生みたくないからなのではないかと思う。ダサイという枠組みに入れられてしまうのを恐れ、所構わず必死になって化粧をし、おしゃれをしてズレを埋める。さらに現代が見た目依存の社会であるということもそれに拍車をかけている。他人と距離を置くのに必死。他人とズレないようにするのにも必死。現代女性はすでに身動きが取れなくなっけてしまっけている現状にある。

他人への思いやりと気遣いの欠如によって生まれてしまっけてのが車内化粧であると思う。社会は人と人の繋がりがあるからこそ成り立っけているものだ。そしてその繋がりとは他人を思っけて気持ちで成り立っけている。その気持ちがなくなっけてしまえば社会は簡単に崩れてしまっけてしまうだろう。それぞれが自分の利益だけを考えて、自己中心的な行動しかしないようになれば、社会の崩壊は当然のことだ。車内化粧は、現代社会が自己中心的な人々の集まりになりつつあることを警告しているひとつのサインなのだ。私たちはそれにいつまでも目を瞑らず、受け止め、変えていかなければならない。本当に社会が崩壊してしまえば取り返しのつかないことになるのは明らかだ。その前に私たちはもう一度、自分たちの生活、そして社会を見つめなおし、考えて、行動していくべきだと思っけて。

車内化粧というものが存在しなくなっけてるとき、私たちの社会は今よりずっと、心が豊かな社会になっけていることだろう。